

# Hello, Kids!

小学校英語  
情報誌

2010  
Vol.4-2

特集：“Are you ready?” 本格化実施の前の現状と課題



毎回欠かさず  
振り返ることで  
次時に生かして  
います。

**巻頭言** 外国語活動についてもう一度確認してみましょう  
 白畑知彦(静岡大学教授).....2  
 小学校で楽しく英語に慣れ親しむために  
 高田大嗣(岐阜県大垣市立中川小学校校長).....3  
**実践報告** Let's enjoy English!  
 向井美香子(青森県三戸郡三戸町立三戸小学校教諭).....4  
 『英語ノート』をうまく活用して  
 河原千夏(鹿児島県鹿児島市立山下小学校教諭).....6  
 Say “Hello” with Alison!  
 根本アリソン(福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師).....8  
 研究会紹介 京都市小学校英語活動研究会.....8



前・埼玉県  
所沢市立柳瀬小学校  
田村 絹江先生



中学生と一緒に  
授業を行いました。  
カルタ対決では  
中学生に負けない  
ように頑張りました。

開隆堂

## 外国語活動についてもう一度確認してみましょう

静岡大学教授 白畑 知彦



すでに多くの小学校で実践されているとはいえ、2011年4月より、いよいよ「外国語(英語)活動」が全面实施されます。その前に、もう一度確認しておいたほうがよさそうだと(筆者が考える)ことを、ここでいくつか述べておきたいと思います。ご参考になれば幸いです。

まず、「教科としての英語教育」が小学校で始まるわけではないということを確認しておく必要があります。文法や語彙などを意識的に学習していく「英語科」は、あくまでも中学校からです。小学校での英語活動では、異文化体験をとおして言語や文化に対する理解を深め、その中で英語などの外国語にも触れていくことが目標です。

異文化理解教育的な要素を盛り込んでいかなければ、1年35時間、2年間で70時間という時間数をやりくりするのは大変です。Do you like sushi? What sport do you play? だけでは2年間は持ちませんし、子どもたちもほとほと飽きるでしょう。

授業を全部英語でやらなければと、自分にプレッシャーをかけすぎてもよくないと思います。オール・イングリッシュでやっていける先生はそれでもよいでしょうが、できなくても英語活動の授業は十分組み立てられます。まず、ご自身が使えるような英語表現から授業中に使用していく方法をお勧めします。

単純なゲームだけの授業で子どもたちの知的好奇心を満足させるのは難しいでしょう。「小学校英語活動では

ゲームをやる」という固定観念を持たれているようなら、それはちょっと違うと思います。歌って、跳ねて、踊り、そしてジャンケンをするだけが小学校英語活動ではないことをもう一度確認しておきたいものです。

『英語ノート』を活用するなら、まず教材研究をしましょう。異文化理解・自文化理解のヒントとなるものがたくさん隠されています。たとえば、『英語ノート1』の冒頭部分だけを取ってみても、アメリカだけではなく、オーストラリアやニュージーランドでも英語を話すのはなぜかという問いかけから、簡単な英語の歴史や植民地について話題を広げることが可能となります。

また、挨拶のときに「握手」をするというけれど、中国や韓国の人たちも握手をするのだろうか。自分の名前を名乗るとき、「Suzuki KenとKen Suzukiと、どっちを使いたい?」という問いかけから、世界の国々の人名(name)について議論してみるのもおもしろいのではないのでしょうか。ALTとのチーム・ティーチングならば、ALTの母国ではどんな名字の人が多いのか、日本や韓国、中国、ブラジルではどんな名字の人が多いのか、一度くらい名前について調べてみたりするのも楽しいかもしれません。小学生の目線に合うレベルの題材を使用して、彼らに本当の自分の意見を言ってもらい異文化理解教育を行うと有意義だと思います。そして、そのような異文化理解活動の中で役に立つ英語表現をいくつか導入していくのがよいと思います。

## 私の地域の取り組み

### 小学校で楽しく英語に慣れ親しむために

～「水都っ子わくわく英語プラン」の取り組み～

岐阜県大垣市立中川小学校校長 高田 大嗣



#### 1. はじめに

大垣市内の小学校では、多くの学校が平成12年度から英語活動に先進的に取り組んだり、総合的な学習の時間に国際理解教育の一環として「英語活動」を実施して取り組んだりしてきた。本市教育委員会では児童が楽しみながら外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりすることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や意欲を育成するとともに、英語による実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成するため、中学校との連携を図り、「英語学習」に抵抗なく取り組むことができる環境を整備する必要があると考え、構造改革特別区域の申請を行った。

具体的には、小学校3～6学年に「英語科」を新設して週1時間実施し、自分のことや大垣市のことなどについて、外国人と積極的に英語で話せる児童の育成を目指すものである。平成16年度には構造改革特別区域の認定を受け、平成18年度からは市内全小学校(22校)で実施することになった。平成20年度には、「改訂水都っ子わくわく英語プラン」を策定し、市内全校が教育課程特例校として「英語科」に取り組んでいる。このような全市的な「英語科」の実施を目指して、次のように取り組んできた。

#### 2. 指導体制の整備

小学校では英語専門の教員でなくても英語科の授業ができるように、実施開始の平成18年度には、本市教育委員会でALTの増員(11人)とともに英語地域人材講師(VET)を44人採用し、学級担任とALTとVETの3人でのチーム・ティーチング体制を整備した。また、カリキュラムや教材、Q&A集を作成するとともに、教員研修も年間11回実施して充実を図ってきた。

#### 3. 指導目標・指導内容の明確化

本市「英語科」の指導目標は次のように明記されている。

英語を用いた言語活動を通じて、言語や文化の体験的な理解を促し、英語の音声や基本的な表現に着実に慣れ親しめるようにしながら、他者と望ましい人間関係を築くためのコミュニケーション能力の基盤を育成する。

この目標のもとに、具体的な指導内容が、「コミュニケーションへの積極的な態度」「聞くこと的能力」「話すこと的能力」「言語や文化についての体験的な理解」の4観点から示されている。

#### 4. 「英語科」の評価について

本市教育委員会では「英語科」実施の成果と課題を把握するために、リスニングテストと児童対象の意識調査を実施して取り組んでいる。平成18年度と平成21年度の2回実施し、次のような成果が現れている。

- ・英語の授業が好きな児童は平成18年度・21年度ともに80%前後を占め、英語の授業に対して、意欲的な児童の姿が表れている。
- ・学級の児童同士や教師と行うコミュニケーション自体が「楽しい・好きだ」と思っている児童が平成18年度38%から平成21年度73%と飛躍的に増え、英語でのコミュニケーションそのものの楽しさを味わう児童が増えてきている。

#### 5. おわりに

本市教育委員会では、平成23年度からの指導要録における評価の観点および評価方法を検討し、市内の研究指定校では本年度から4観点別評価を先行実施し、本プランのさらなる充実に向けて取り組んでいる。

# Let's enjoy English!



青森県三戸郡三戸町立三戸小学校教諭 向井 美香子

## 1. はじめに

本校の英語活動は平成17年度から本格的にスタートし、平成19、20年度には文部科学省の「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」の指定を受けました。これまでの学習内容としては、ALTが英語活動に関わり、ゲームや歌などを取り入れた学習を中心に行ってきました。

昨年度から三戸町小・中一貫教育が導入され、英語科の授業を全学年で実施することになりました。1年生から「英語科」を導入し、9年間を見通した系統的・継続的な指導を行い、コミュニケーション能力の素地を養うという視点に立ち、楽しみながら言語や外国の文化に対する理解を深めるための意欲や態度を育成すること、ALTと学級担任とのチーム・ティーチングでの指導体制を確立していくことで、英語科の授業を進めています。年間の授業時数は1・2学年は20時間、3～6学年は35時間で、低学年からアルファベットを読んだり、中学年ではアルファベットを書いたり、「読むこと・書くこと」も内容に盛り込んでいます。

## 2. 英語を楽しみながら学ぶ手立てを

研究初年度の成果として、学級担任自身が英語学習についての理解を深めるとともに、視聴覚教材の使用やALTとの連携の仕方、クラスルーム・イングリッシュを使用した授業の構成や指導技術の向上を図ることができました。その結果、活発に授業に参加し、週1回の英語科の授業を楽しみに待っている児童も多くなってきています。しかし、英語学習に関するアンケート結果から、積極的に取り組んでいるものの、学年が進むにつれて、英語で表現することに苦手意識を持ち、積極的に他と関わっていくことができない児童も見られるようになってきたことがわかってきました。

そこで今年度は、体験的・ゲーム的な活動をさらに工夫し、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童を育成したいと考えました。体験的・ゲーム的な活動のねらいを明確にするとともに、活動の中で繰り返し同じ表現に

触れさせることで英語に慣れ親しみ、自信を持って、多くの人と触れ合うような活動を意図的に授業に組み込む学習を進めることにしました。

## 3. 各学年の実践から

### (1) 6年生の授業から

段階	活動内容
導入	1. 歌 2. あいさつ(月日, 曜日, 天気, 時間など)
活動	3. アルファベットを書く 4. 動作に関する言葉の発音練習 5. ジェスチャーあて(『英語ノート2』Lesson 4) 6. ジェスチャーゲーム
まとめ	7. 振り返り(活動を振り返って発表) 8. あいさつ(本時の授業の感想)

- ・ゲーム的な活動に入る前に、動作に関する言葉の発音を、フラッシュカードを用いて繰り返し練習する。
- ・「Can you～? / Yes, I can. / I can～」という表現で、「ジェスチャーゲーム」をいろいろな形態(ALT対児童, 児童対児童など)で繰り返し行い、同じ表現に何回も触れさせる。
- ・自分と同じカードを持っている友だちを探す活動にして、たくさんの人と英語を話す状況を作る。

### (2) 2年生の授業から

段階	活動内容
導入	1. あいさつ(英語であいさつ) 2. 歌(Head, Shoulders, Knees and Toes)
活動	3. アルファベットの小文字を読む 4. キーワード・ゲーム(カードを使って, 乗り物の言い方を確認) 5. チャンツ 6. これは何?ゲーム
まとめ	7. 振り返り(活動を振り返って発表) 8. あいさつ(本時の授業の感想)

- ・1時間の中で、「キーワード・ゲーム」、「チャンツ」、「これは何?ゲーム」を行い、くり返し同じ表現に触れる。
- ・「これは何?ゲーム」では、たくさんの友だちとたずね合ったり答え合ったりする。

### (3) 全学年での取り組み

- ・アルファベットの学習は、毎時間少しずつ行う。
- ・英語学習の振り返りは、自己評価で行う。
- ・評価は、学年の評価規準に応じた観点(コミュニケーションへの関心・意欲・態度、理解する能力、表現する能力、言語や文化についての知識・理解)で行う。

## 4. 職員英語研修と小・中連携について

電子黒板や視聴覚教材の使い方を全員で確認し合い、すぐに授業で活用できるようにしました。視聴覚教材や掲示用の教材はある程度そろってはいるものの、十分に活用できていないものもあるので、校内の英語研修の時間に教材や教具を紹介したり、実際に映像を見て学習の進め方を学び合ったりしています。また、ALTと一緒にチャンツやゲームも体験しています。最初は英語科の学習に戸惑いを見せていた先生も、ALTとのやりとりと教材の使い方にも慣れて、息の合った授業が展開されています。

夏休みには、町英語科専門委員会主催で英語科研修会を開き、町内の小・中学校と英語学習について情報交換を行いました。今年度は、中学校と連携した学習指導も計画しており、中学校の英語科の先生が各小学校へ出向いて数時間の授業をしていただくことになっています。今後は、学校の枠を外して英語の授業をお互いに見ることも必要になっていくでしょう。

## 5. おわりに

低・中学年の学習では、視聴覚教材を使用したり、ゲームを工夫したりして、食べ物や乗り物、色などに関する単語や表現の仕方をインプットしていくこと、高学年では『英語ノー

ト』を使用しアウトプットしていくことを考えています。『英語ノート』の特徴として、自己表現ができる活動や相手と意思疎通を図ろうとする活動、英語を聞き取る活動などがあります。1～4年生までに学習した内容を再度学習して、前にも学習したことがある単語や文を思い出すことが可能です。

児童はALTが大好きです。英語の発音を確認するだけでなく、ALTの人柄に触れることによ



って、さらに英語への関心が高まっています。実際、アンケートにも「ALTとの学習が楽しい」「ALTが好き」という回答が多くなっています。担任が活動を主導し、ALTとチーム・ティーチングで授業を進めていくことのメリットはたくさんあります。普段の教室で行っていることを英語の授業に生かしていけばよいのですから、担任は場に応じて児童に発言させるかどうかの判断も容易にできますし、表現のデモンストレーションも見せることができます。そして、教師が英語を使おうとする姿を見せることで、児童が英語に対する親近感を持つことができるようになります。また、児童が英語で表現したり、自分の気持ちを相手に伝えたり、相手をほめたりすることはとても大切です。たくさんの人と触れ合う中で、コミュニケーションの大切さを理解し、実践できたという達成感は、学習意欲の向上につながるはずで、年に2回のアンケート結果から児童の変容を受け止め、授業に生かすようにしています。アルファベットの学習についてはまだまだ指導法を模索中ですが、各学年で試行錯誤しながら取り組んでいます。児童が中学校に進学してから英語に対する苦手意識を持たないようにするため、日々の実践で英語学習についての理解を深め、研鑽していきたいと思っています。

# 『英語ノート』をうまく活用して



鹿児島県鹿児島市立山下小学校教諭 河原 千夏

## 1. 本校の外国語活動への取り組み

平成23年度から始まる外国語活動本格実施に向けて、本校では昨年度より先行実施と研究を始めた。1年目は文部科学省より配布された『英語ノート』をベースにした指導計画を作成し、実施してきた。2年目はその指導計画の修正を行いながら、より子どもの実態に応じた内容となるように研究を進め、実践している。以下に本校で取り組んできた『英語ノート』の効果的な活用の仕方について紹介する。

## 2. 『英語ノート』の効果的な活用

『英語ノート』は外国語活動の目標を具体化するのにとっても便利な教材である。『英語ノート』には、学習指導要領の3つの目標(①言語や文化について体験的に理解を深める、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う、③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる)が具体的な形となって盛り込まれている。また、『英語ノート』には「指導資料」があり、指導計画の他、具体的な指導手順も掲載されている。学校独自の指導計画を持っていても、『英語ノート』の活動を部分的に加えることも可能である。

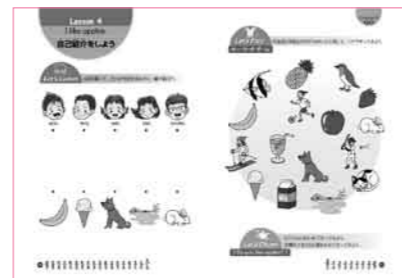
また、『英語ノート』の各活動をそのまま活用するだけでは、児童の実態に沿わない部分や、指導のねらいに必ずしもそぐわない部分が出てくることもある。そこで授業プランを作るにあたって、以下のような方法が考えられる。

### (1) 『英語ノート』の活動の再配列

単元の第1時では、単元最初の見開き2ページを指導してしまいがちであるが、指導のねらいや子どもの実態に即して、『英語ノート』の各活動の配列を変えることも考えられる。以下に実践例を挙げる。

『英語ノート1』のLesson 4「自己紹介をしよう」を「指導資料」の通りに活動を行うと、単元の第1時の導入過程でLet's Listenの活動になり、Hi. My name is Ken. Nice to meet you. I like swimming. Thank you. という英語を聞く活動となる。しかし、音声教材を聞かせるだけ

では子どもたちの興味・関心を持続させることが難しく、負担が大きい活動になるのではないかと考え、Let's Listenの部分を第1時の最後の過程にもってくることにした。導入過程には、指導者の好きなもの、嫌いなものを聞かせることで、本時のねらいに気づかせ、その次にLet's Playの「キーワード・ゲーム」を行った。この活動は、聞いたことをそのままくり返しながらクラス全員で言う活動であり、子どもたちにとって負担も少ないと考えた。



文部科学省『英語ノート1』pp.24~25より

### ●『英語ノート』再配列の例 (Lesson 4)

指導資料より	本校での指導計画
① Let's Listen	① 指導者の好きなもの、嫌いなものを聞かせる。
② Let's Play キーワード・ゲーム	② Let's Play キーワード・ゲーム
③ Let's Chant	③ わたしは誰でしょうクイズ (本校独自の活動)
	④ Let's Listen

「キーワード・ゲーム」を通して語彙に慣れ親しむ活動を行った後、それらの語彙を活用して“I like ~.”という表現を使った「わたしは誰でしょうクイズ」(詳細は後述)を行った。この活動により、子どもたちは聞く必要性を感じ、それと同時に“I like ~.”という表現に十分に慣れ親しむことができたため、聞く英文の量が多くても安心感を持ってLet's Listenの活動に取り組むことができたようである。

### (2) 単元をまたがる再配列

『英語ノート1』のLesson 6「外来語を知ろう」にはレストランのメニューとして多くの食べ物のイラストが描かれ、CDの中にも食べ物の語彙が扱われている。ところが、『英

語ノート1』のLesson 9「ランチ・メニューを作ろう」でも同じ語彙が扱われているため、これを活用することにした。予め、CDで食べ物や料理の語彙に触れておくことで、Let's Listenの活動に不安をもつことなく、取り組むことができると考えたからである。

### ●単元をまたがる再配列の例 (Lesson 6, Lesson 9)

指導資料より	本校での指導計画
① Let's Play おはじきゲーム	① Let's Chant
② Let's Listen 1	② Let's Play (Lesson 9)
③ Let's Listen 2	③ メイク・ペアーズ・ゲーム (本校独自の活動)
④ Let's Chant	④ Let's Listen 2

### (3) ねらいに応じた効果的な活動の設定

『英語ノート』には、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語への慣れ親しみ、言語・文化への気づきの3つがバランスよく配置されており、とても効果的な教材であるが、すべての活動を行う必要はなく、子どもの実態やねらいに応じて活動を新たに設定することも可能である。そこで、『英語ノート』にはない活動に差し替えた実践を挙げる。

### ●「わたしは誰でしょうクイズ」

『英語ノート1』のLesson 4「自己紹介をしよう」は、自分の好きなものを相手に伝え、自己紹介をする単元である。そこで、聞き手である子どもたちに「聞きたい」という気持ちをもたせるために、第1時に「わたしは誰でしょうクイズ」を取り入れた。この活動はクラスの中の友だちを題材としたクイ



ズ形式となっているため、子どもたちは“答えは誰だろう”とか“クイズに正解したい”と意欲的に活動することができた。ただ単に、『英語ノート』の中にある登場人物の好きなものを聞くよりも、クラスの友だちの意外な面に気づいたりするなど、英語を通して子どもたちの心が動く活動となった。また、クイズの中で教師が、“I like ~.”という表現をたくさん聞かせることで、次の活動へ向けてこの表現に慣れ親しませることができた。子どもたち自身も“Do you like ~?”を自然に使うことができ、次時への期待感を高める活動となった。クイズの詳細について次に示す。

1. 事前に子どもたちに好きなものについてのアンケートをとる。
2. 教師がその子になりきって、“I like ~.”とヒントを3つ出す。
3. 子どもたちはそのヒントを聞いて誰のことを言っているのか考える。
4. 答えがわかったら、手を挙げて、その子の名前を言い、本人に“Do you like ~?”とたずねる。
5. たずねられた子どもは合っていれば“Yes.”と答える。

この活動のポイントとしては、事前にクラスの子どもたちに簡単なアンケートをとっておくことである。クラスのある子どもが何を好きなのか、何を嫌いなのかということについて、他の子どもたちが知っていることもあれば知らないこともある。学級担任だからこそ知りうる情報を活用すれば、クイズの難易度も調整できる。

## 3. おわりに

来年度からの外国語活動の本格化実施を前に、早くも『英語ノート』の行く末について案じられている。『英語ノート』がなくなってしまうと、授業が成り立たないのではないかと不安の声も聞かれる。しかし、そういう状況を生かして、『英語ノート』の一部を活用したり、ひと工夫したりすることでよりよい活動が生まれる可能性をもっているのではないと思う。



# Say "Hello" with Alison!

根本 アリソン

イギリス出身・1989年より福島県で英語講師として活躍中

## Down under...

### オーストラリアでの忘れられない体験

前回に続いて、オーストラリア南部のバサースト市の話です。私にとってこの旅で一番印象に残っている体験は、広い芝生の校庭の真ん中に、古く白い建物のある私立オール・セイントス・カレッジ(All Saints College)への学校訪問でした。ここでは、男女合わせて、550人の生徒が幼稚園から高校卒業まで教育を受けています。130年の歴史を感じさせる古くて白い校舎はいくつかの建物に分かれており、案内された日本語教室は和風の建物で日本庭園もありました。教室も和風の落ち着いた雰囲気、床の間には生け花、美しい掛け軸や水墨画があり、子どもたちが作った折り鶴や七夕飾り、ウルトラマンの塗り絵もありました。

このように、日本のすばらしい伝統や近代文化を取り入れた環境の中で学習をすれば、言葉の上達だけではなく日本文化の興味につながってくると思います。

私たちが見学していたときに思いがけなく、20人のかわいい幼稚園児が、日本の童謡の歌をプレゼントしてくれました。遠いオーストラリアで、一生懸命歌ってくれた子どもたちの「甘い」歌声に酔いしれたひと時でした。

All Saints CollegeのHP (<http://www.saints.nsw.edu.au/>)

(福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師)

## 研究会紹介

### 京都市小学校 英語活動研究会

当研究会は、平成14年に設立し、当初より全国に先駆けて先進的な取り組みを行ってきました。「全国小学校英語活動実践研究会」を立ち上げ、「全国大会」の事務局として4回の大会運営に当たってきました。京都市のみならず、福岡県大牟田市や岐阜県でも大会が開催され、名実ともに「全国大会」へと発展する原動力としてその役割を担ってきました。

今年度研究会では、研究会主催による夜間の英語活動実践研修会、夏季指導案作成研修会の実施、子ども体験教室「えいごっこ」の実施(土曜日に小学生147名が参加)、教育委員会との共催によるワークショップや英語活動指導講座の実施など、若い研究会員(161名)が中心となって教員の英語力・指導力向上に向けて意欲的に取り組んでいます。また第7回全国小学校英語活動実践研究大会京都大会の開催に当たり、各発表校の指導案検討会に積極的に参加し、お互いに切磋琢磨しながら活動を推進しています。

<http://www.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/kenkyukai/s-eigo/>

京都府京都市立養正小学校校長 藤村 徹

これができる! 『英語ノート1』 完全対応  
授業指導書1 **パーフェクト版**

これができる! 『英語ノート2』 完全対応  
授業指導書2 **パーフェクト版**

定価各 18,900円

『英語ノート』を使ったさまざまな授業の形態や場面に応じた指導法を①指導書2種類(ソコ用、TT用)、②指導法DVD、③音声CD、④ワークシート集、⑤CD-ROMなどで丁寧に解説してある指導書セットです。校内研修などにおすすめです。

ニッポンの  
伝統文化を  
知ろうよ

学校図書館  
必備の書

定価 2,625円

外国の友だちに言われたんだ  
「日本のこともっと教えてよ!」って  
子どもたちが意欲的に調べ学習できる工夫が満載! 弊社のWEBページから授業で使えるワークシートやイラストなどが自由にダウンロードできます。「総合的な学習の時間」にあると便利な一冊です。



小学校英語情報誌

# Hello, Kids!

Vol.4-2(通巻14号)

定価120円(本体114円)

送料80円

平成22年9月24日印刷 平成22年9月30日発行(年2回発行) 編集兼発行人 山岸 忠雄

印刷所 株式会社興陽社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎03(5684)6121(営業), (5684)6118(販売), (5684)6115(編集) <http://www.kairyudo.co.jp/>



## 開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階 ☎011(231)0403  
東北支社 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町1-11-1 萩野町Mビル2階 ☎022(782)8511  
名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町14-4 星ヶ丘プラザビル6階 ☎052(789)1741  
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16 ☎06(6531)5782  
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 F Y Cビル3階 ☎092(733)0174